

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語演習Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0229		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	物質化学工学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	1	
教科書/教材	RAISING YOUR LEVEL! FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST（南雲堂）、自作プリント教材				
担当教員	高越 義一				

到達目標					
①TOEICで扱われる英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる語彙を適切に活用できる。 ②TOEICで扱われる英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる文法・構文を適切に活用できる。 ③習得した語彙・文法・構文を基に英文を読み、その意味内容が理解できる。 ④習得した語彙・文法・構文を基に英文を聴き、その意味内容が理解できる。					

ループリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
語彙	英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる語彙が十分身についている。	英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる語彙が身についている。	英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる語彙が身についていない。
文法・構文	英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる文法・構文が十分身についている。	英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる文法・構文が身についている。	英語を読む、書く、聴く、話す際に必要となる文法・構文が身についていない。
読解力	習得した語彙・文法・構文を基に英文を読み、その意味内容が十分に理解できる。	習得した語彙・文法・構文を基に英文を読み、その意味内容が理解できる。	習得した語彙・文法・構文を基に英文を読むが、その意味内容が理解できない。
聴解力	習得した語彙・文法・構文を基に英文を聴き取り、その意味内容が十分に理解できる。	習得した語彙・文法・構文を基に英文を聴き、その意味内容が理解できる。	習得した語彙・文法・構文を基に英文を聴くが、その意味内容が理解できない。

学科の到達目標項目との関係	
学習・教育到達度目標 A-1 JABEE 1(2)(f) ディプロマポリシー 3	

教育方法等	
概要	この授業は、TOEICテストの問題演習を行うことを通して、英語4技能のうち特にListeningとReadingのレベルを向上させることを目標とする。
授業の進め方・方法	講義及び演習
注意点	- 必ず予習をして臨んでください。 - 復習をして文法や語彙の定着を図ってください。 - 音声CDを利用してリスニングや音読に取り組んでください。 - 授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	Unit 8	Ecology
		2週	Unit 8	Ecology
		3週	Unit 9	Shopping
		4週	Unit 9	Shopping
		5週	Unit 10	Transportation
		6週	Unit 10	Transportation
		7週	Unit 11	Computers
		8週	Unit 11	Computers
	4thQ	9週	中間試験	学習範囲の試験をする
		10週	中間試験の返却、解説 Unit 12	誤答分析 Offices
		11週	Unit 12	Offices
		12週	Unit 13	Jobs
		13週	Unit 13	Jobs
		14週	Unit 14	Business
		15週	期末試験	学習範囲の試験をする
		16週	期末試験の返却、解説	誤答分析、アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	

分野横断的能力			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	

				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	

評価割合			
	試験	課題	合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	100	0	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0